

文書番号	RT002-02
------	----------

タイトル
HOLON の複数バージョン 混在について (V7.0以降編)

日本電気株式会社
ソフトウェアエンジニアリング本部

発行履歴

版	発行年月日	備考
1	2006年1月20日	

第 1 版

項番	改版内容
1	初版

HolonEnterprise(V7.0)以降のバージョン同士における複数バージョン混在についての注意事項を以下にまとめます。

HolonEnterprise(V6.0)までのバージョンを含めた混在については「RT002-01 HOLONの複数バージョン混在について」をご参照ください。

1. 開発環境

開発環境を混在させて動作させることはできません。

以下により環境を変更して御使用願います。

1. 1. クライアント

[Windows95/98]

使用する HOLON に合わせた環境変数が設定されるよう `autoexec.bat` を修正し、マシンを再起動してください。

[WindowsNT/2000/XP]

使用する HOLON に合わせた環境変数を設定してください。

1. 2. サーバ

[WindowsNT/2000/2003]

起動中の HOLON サービスを停止し、使用する HOLON に合わせたシステム環境変数を設定後、使用する HOLON のサービスを起動してください。

[Unix]

起動中の HOLON デーモンを停止して、使用する HOLON のデーモンを起動してください。

2. 実行環境

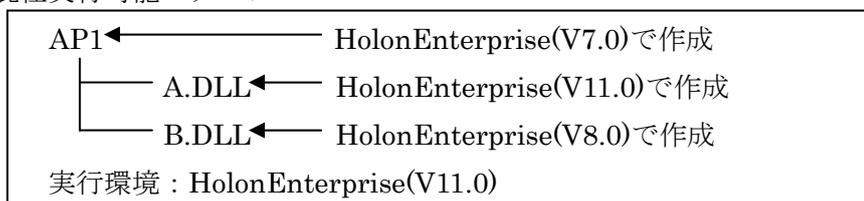
2. 1. 互換性

V7.0 以降の各バージョンではバイナリレベルでの上位互換を持ちます。

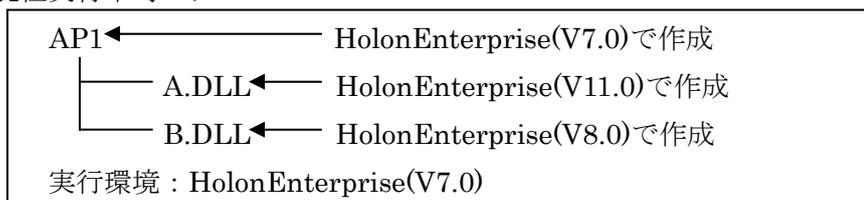
そのため、上位バージョンの実行環境上であれば、下位バージョンで生成済みのアプリケーション、ライブラリを再生成することなく動作させることが可能です。

また、各バージョンで生成済みのアプリケーション、ライブラリを同一プロセス中に混在させることも可能です。

混在実行可能パターン

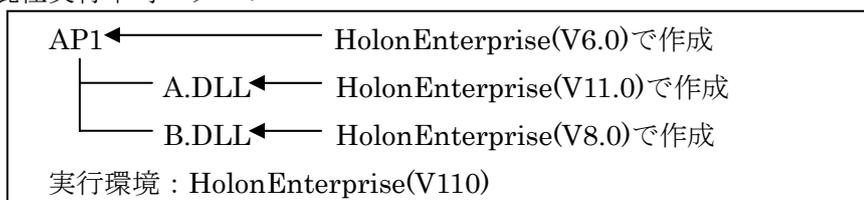


混在実行不可パターン



★実行環境が生成時に使用した開発環境より古い

混在実行不可パターン



★V6.0 までのバージョンで生成したアプリケーション、ライブラリを含む

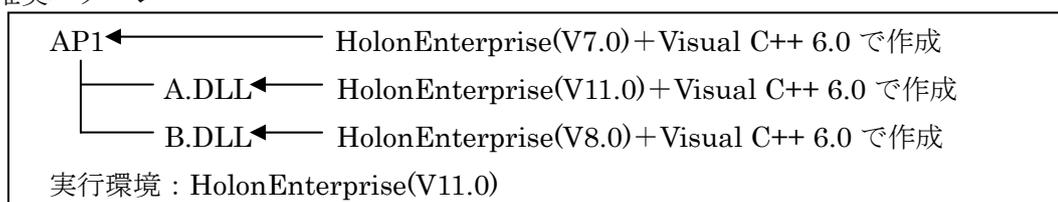
ただし、以下については再生成が必要となります。

- WebOTX 連携時のクライアント/サーバスタブ (仕様名_C.DLL/仕様名_S.DLL/
lib 仕様名_C.sl/lib 仕様名_S.sl)
使用する WebOTX のバージョンを変更する場合、スタブの再生成を実施する必要があります。
- Oracle をリンクするアプリケーション/ライブラリ

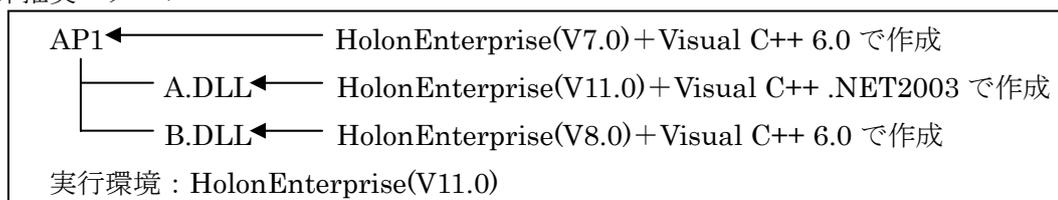
使用する Oracle のバージョンを変更する場合、Oracle をリンクしているアプリケーション／ライブラリの再生成を実施する必要があります。(UNIX のみ)

また、異なるバージョンの Visual C++を使用して作成したアプリケーション／ライブラリを同一プロセス中に混在させた場合、意図しない問題が発生することがあります。同一プロセス中で動作させるアプリケーション／ライブラリは同一バージョンの Visual C++で作成することを推奨いたします。

推奨パターン



非推奨パターン



2. 2. 共存

同一マシンに複数バージョンの HolonEnterprise 実行環境を構築することも可能です。この場合、使用するバージョンに合わせた環境変数を設定後、アプリケーションを動作させてください。

例) V7.0 と V11.0 の双方の実行環境を同一マシンに構築している場合

V7.0 で作成したアプリケーションを実行する前に、V7.0 実行環境がインストールされたディレクトリおよび、V7.0 で作成したアプリケーション／ライブラリが格納されたディレクトリを、SET コマンドなどを使用し環境変数 PATH に設定

V11.0 で作成したアプリケーションを実行する前に、V11.0 実行環境がインストールされたディレクトリおよび、V11.0 で作成したアプリケーション／ライブラリが格納されたディレクトリを、SET コマンドなどを使用し環境変数 PATH に設定

3. 実行環境混在時の注意事項

3. 1. Windows95/98/NT/2000/XP/2003

- 異なるバージョンの HOLON を同一のディレクトリにインストールしてはいけません。
- Windows 上の HOLONPR.INI および DBINITRC ファイルについて、開発に使用した HOLON のバージョンに関係なく同じでなければなりません。

(異なるものを使用する場合、必要に応じて環境変数を再設定してください)

ファイル	ファイル存在場所	格納情報
HOLONPR.INI	環境変数 HOLONAB で指定するディレクトリに存在	プリンタ設定情報
DBINITRC ファイル	環境変数 DBINITRC でファイル名を指定する	データベース接続情報

- OLF連携において画面電文（画面定義よりコピー原文を生成する）機能を利用している場合には、各バージョンのプログラム（実行EXE）があるディレクトリに各バージョンに対応するOLF連携ランタイムライブラリ（CXLB6001.DLL）をコピーしておく必要があります。型情報オブジェクト（共通エリア仕様よりコピー原文を生成する）機能だけを利用している場合には共存可能であり上記の作業は不要です。

3. 2. HP-UX

- HP-UX 上の HOLON で開発したアプリケーションが実行時に環境変数 SHLIB_PATH を参照するようになっている（chatr コマンドで確認可能）場合、SHLIB_PATH に HOLON ランタイムディレクトリを指定しない様にしてください。（HOLON ランタイムディレクトリへの参照パスはアプリケーションに埋め込まれています）
- HP-UX 上の font.conf, font.tbl, HOLONAB.PRT および DBINITRC ファイルについて、アプリケーション実行ユーザが同じ場合、開発に使用した HOLON のバージョンに関係なく同じでなければなりません。（font.conf,font.tbl に関しては、環境変数 FONTDEFENV を指定した場合、および AP 実行時のカレントディレクトリに格納している場合のみです。）

(DBINITRC について、異なるものを使用する場合、必要に応じて環境変数を再設定してください)

ファイル	ファイル存在場所	格納情報
Font.tbl,font.conf	環境変数 FONTDEFENV で設定されたディレクトリ、AP 実行時のカレントディレクトリ、対応する HOLON のバージョンで指定する etc ディレクトリの順に検索	フォント情報
HOLONAB.PRT	AP 実行ユーザのホームディレクトリ	プリンタ設定情報
DBINITRC ファイル	環境変数 DBINITRC でファイル名を	データベース接続

	指定する。既定値は.dbinitrc (AP 実行ディレクトリ、ホームディレクトリの順に検索)。	情報
--	--	----

注) AP 実行時のカレントディレクトリとは、アプリケーションが格納されているディレクトリではなく、実行されたときのカレントディレクトリを指します。

3. 3. 全 OS 共通

- ・今後、HOLON 各バージョンの実行環境混在のため、各バージョン独自の環境変数等の設定が必要になる場合があります。

以上